

教 育 警 察 委 員 会 委 員 協 議 会 記 録

1 会議の日時	令和5年11月20日 開 会 午後 0 時 5 8 分 閉 会 午後 2 時 2 0 分
2 会議の場所	第 6 委 員 会 室
3 出席者	委 員 委員長 藤 本 恵 司 副委員長 小 川 祐 輝 佐 藤 武 彦 加 藤 大 博 布 俣 正 也 森 治 久 木 村 千 秋 判 治 康 信
	執 行 部 別 紙 配 席 図 の と お り
4 事務局職員	課長補佐 市橋 ますみ 主任 安藤 和久

5 会議に付した案件		
件	名	審査の結果
1	エビデンスを重視した教育政策について 演 題：教育政策におけるEBPMについて 参考人：東京大学 社会科学研究所 教授 田中 隆一 氏	

6 議事録（要点筆記）

○藤本恵司委員長

それでは、ただいまから教育警察委員会委員協議会を開会する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るために開催したものである。議題は、お手元に配付した次第のとおりである。本日は、執行部のほか、議題について、報告いただくため、東京大学社会科学研究所教授の田中隆一様に出席いただいている。

それでは、エビデンスを重視した教育政策について、田中様から報告をお願いする。

（参考人説明：東京大学社会科学研究所 教授 田中 隆一 氏）

○藤本恵司委員長

ただいまの説明に対して、質疑はないか。

○加藤大博委員

生徒が課題や学級活動に取り組む際など、授業の中でICTを活用させることの必要性についてどのように考えるか。

○田中参考人

GIGAスクール構想以降は、生徒1人1台端末が普及したが、端末を配付するのみではなく、生徒や教員が活用できるような仕組みを工夫する必要があると考える。また、ICT機器のログデータを活用し、分析することで、よりよいICT機器の活用方法を考えることにつなげていく必要があると考える。

○加藤大博委員

現状、ログデータが活用されている事例はないか。

○田中参考人

例えば、文部科学省においても、独自で開発したメクビットというオンラインの学習システムのログデータを活用したいと考えているが、活用の仕方を模索している最中である。データサイエンティスト等の専門家が入れば、データの分析が進み、活用は可能になるのではないかと考える。

○加藤大博委員

児童生徒の学力を伸ばすことに長けている教員に教わると、収入等がより高くなるという海外の教育データベースを用いた研究例の話があったが、教育が児童生徒の基礎学力を担保するものと捉えるのであれば、データを児童生徒の学習のために活用するよりは、教員の質を上げ、教育の効果を均一にするために、教員の研修や適性の判断に活用した方が良いのではないか。また、児童生徒の学力を伸ばすことに長けている教員の授業を録画で見せた方が、児童生徒の学力向上に効果的となるなど、人が直接教えることの必要性が問われることに行きつくのではないか。

○田中参考人

研究例は、児童生徒がどのような教員に授業を受けると学力が担保されるのかを知ることが目的としている。学習効果は、特に算数や国語に特化した効果であり、教育活動は学習以外の部分もあることから、教員の適性を判断できるものではない。また、教育のデジタル化によって、教育は画一的に教えることから個別の学びにシフトしていて、教員の役割は教えることから児童生徒に伴走するトレーナーに変わりつつあるため、人が教えることの必要性については、今後の状況の変化を見る必要がある。

○判治康信委員

ICTを活用した個別的な指導が教育現場に反映されるのはどのくらい先なのか。

○田中参考人

教科指導に関しては、塾や民間企業で取り入れているところもあり、技術的には既に可能であると思われる。一方で、教育現場にどの程度取り入れるかは、まず教員の在り方について議論し、教員の役割などの定義づけが必要であると考え。ある程度変えていけるところからスピーディーに変えていくことが現実的で効率的な方法である。

○佐藤武彦委員

2018年のOECDの国際調査では、日本は中学校におけるICTの活用割合が他国と比べて低いが、これに対応して学力も低いのか。

○田中参考人

OECDにおける学力調査では、日本はかつてのように常に1位ではないが、上位である。ICTの活用は進んでいないが、学力は上位であるという状況のため、ICTを活用すれば学力もより向上するのではないかということになる。

○佐藤武彦委員

教育データベースを活用して取組につなげている自治体はいくつかあるが、取り組むことになった背景は何か。

○田中参考人

子供の学力が低い等の問題意識を強く持っている自治体が多い。

○佐藤武彦委員

取組を始めてから時間が経っていると思うが、効果はあったのか。

○田中参考人

例えば、東京都足立区では放課後に小学3・4年生の学力の達成度が低い児童を対象に基礎学習教室を行い、次の年には学力が改善されたという効果が出た。

○布俣正也委員

ICTを活用することのデメリットはあるのか。

○田中参考人

対面の交流が減ることが考えられるが、例えば、教室では大勢の前で発言できない子がオンライン上のグループチャットでは発言できるというような可能性もある。まずは活用してみることが必要であり、今はICTを活用することの明らかなデメリットは思い浮かばない。

○小川祐輝副委員長

学力を分析する上でデータは必要であるが、マインドや道徳的なこと、非認知的な能力はEBPM（エビデンスに基づく政策立案）の分野の中で数値化できるのか。

○田中参考人

非認知的な能力は、くじけない心や自尊心など、心理学の分野においてある程度計測手法が確立され、様々な調査において数値化及びデータベース化されている。

○小川祐輝副委員長

県において、データを活用した教育はどれくらい進んでいるのか。

○堀教育長

義務教育課程では、「NEW!GIFUウェブラーニング活用推進事業」の中において、算数の学習でデータを活用した学習を実践している。

多くの情報が得られるようになった現状で、あらゆる個人の情報を紐づけて使用することが教育の目的に即しているか不安を覚えるが、どう考えるか。

○田中参考人

個人情報を利用するため、まず、法律上情報を利用してよいかという点を考える必要がある。情報の利用は、特定の課題等を解決するためであるので、必要な情報を得ようとする際に、その情報

の役割を明確にしたうえで紐づけるとよい。また、必要な情報が必要な時に紐づけられるよう準備しておくことが必要である。

○加藤大博委員

東京都足立区の事例があったが、様々なデータを結合して分析した結果、どのようなことが分かったのか。

○田中参考人

小学校3・4年生の補習教室は効果があったことやクラスサイズの縮小は小学校児童の学力と因果効果があるとわかったこと等である。

○森治久委員

加賀市においては、データ連携に対する本人同意は何%ほど得られたのか。

○田中参考人

加賀市内の中学校1校が実証実験の対象であり、保護者に同意を求めたところ、70%の同意を得られた。70%はかなり高い印象である。

○藤本恵司委員長

ほかに、質問はないか。

(発言する者なし)

○藤本恵司委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって質疑を終了する。

他に意見等はないか。また、執行部はいかがか。

(発言する者なし)

○藤本恵司委員長

意見もないようなので、これをもって、本日の委員協議会を閉会する。

教育警察委員会配席図
(教育委員会)

令和5年11月20日

第6委員会室

